

**今後の検討に向けて、これまでに頂いた御意見**

---

- 総会・部会・委員会においてこれまでに頂いた御意見（詳細：資料2－4）、「公正競争レビュー制度」の検証結果（資料2－5）を基に作成。

## 1. 2020年代に向けた情報通信の展望

- ① **日本経済を新たな成長軌道に乗せるとともに、少子高齢化、財政危機、エネルギー危機等、我が国が抱える課題に対応するために必要なICTの役割**は何か。

- 1) 日本経済の成長や社会的課題の解決のためには、ICT基盤の更なる普及・発展とICTの利活用の促進が車の両輪として重要。
- 2) 経済成長等のためには、ICT産業の成長のみならず、ICT基盤を利用する産業の競争力強化も重要。
- 3) 経済成長等のためには、ICT基盤を担う事業者やICT産業のグローバル展開が重要。

- ② 2020年代に向けた**ICTの利活用、技術、新サービス・産業等の動向**はどのようなものか。

- 1) 2020年代には、現在の携帯端末のみならず、様々な機器や無数の無線デバイスがネットワークにつながる環境が実現。
- 2) 2020年代には、M2M (Machine to Machine: 機器間通信) やIoT (Internet of Things: モノのインターネット) 等、あらゆる産業でICT基盤を利用した新サービスが創出。

- ③ ICTの役割や今後の動向を踏まえ、2020年代にふさわしい**ICT基盤の姿**はどのようなものか。

- 1) 誰でも、どこでも、安心して利用でき、多様なニーズに応じた選択肢があるICT基盤が望ましい。
- 2) 大災害時にもつながり、また、安全性・セキュリティが確保された強靱なICT基盤が望ましい。
- 3) 急増するモバイル・トラフィックのオフロード等のため、無線LAN環境の構築や固定通信も重要。

- ④ ③の姿を実現するためにICT基盤を担う**事業者が果たすべき役割**は何か。

- 1) 利用者を取り合い囲い込むだけの競争ではなく、サービスの向上に資する競争が重要。
- 2) 通信ネットワークの強靱化等のためには、ICT基盤を担う事業者が積極的に投資を行うことが重要。

## 2. 情報通信基盤を利用する産業の競争力強化のための電気通信事業の在り方 ー世界ービジネスがやりやすいICT基盤の提供ー

### (1) 世界一低廉かつ高速でビジネスしやすい環境の実現

① 現状において、ICT基盤を担う事業者間での競争状況をどう捉えるか。サービスや事業主体の多様性についてどう捉えるか。料金水準についてどう捉えるか。

#### 1) 「モバイル市場」における競争状況

- ・ 主要事業者・グループは3グループに集約し、その競争は、新規の利用者を取り合い囲い込むだけの競争ばかりが激しく、また、協調的寡占の色彩が強い。
- ・ スマートフォン用の主要な通信料金は各社一律となっており、利用実態とも乖離。利用者のニーズに応じた納得感のある料金体系が必要。
- ・ モバイル市場の更なる競争促進のためには、MVNO等の多様な事業主体の参入が重要だが、認知度等に課題。

#### 2) 「固定通信市場」における競争状況

- ・ 急増するモバイル・トラフィックのオフロード等のため固定通信は重要だが、光ファイバ等の普及は鈍化傾向。

#### 3) 「これまでの市場の枠組を超えた新たな動向」についての状況

- ・ 事業者のグループ化の進展、固定通信と移動通信等のサービス連携・電波利用の連携の進展、通信レイヤーと上位レイヤー等との垂直統合型サービスの進展等、これまでの市場の枠組を超えた新たな動向がみられる。

- ② 2020年代に向けて、圧倒的に速く、限りなく安く、多様なサービスを提供可能でオープンなICT基盤を有線・無線の両面で実現し、ICT基盤を利用するあらゆる産業の競争力強化を図るには、何が必要と考えられるか。

## 1) 総論

- ・ 主要事業者・グループの寡占化の進展を踏まえ、公正競争の在り方について議論が必要。
- ・ 事業者重視の議論ではなく、利用者視点での議論が必要。

## 2) 「モバイル市場」の更なる競争促進による低廉・多様なモバイルサービスの実現のための制度・方策の在り方

- ・ 主要事業者・グループ間において、利用者のニーズに応じた多様なサービスや料金プランを実現し、利用者の選択肢を多くすることが必要。
- ・ MVNO等の多様な事業主体の更なる参入促進による低廉・多様なサービスの実現や、M2M等の新たなサービスの普及促進が必要。

## 3) 「固定通信市場」の更なる競争促進による低廉・多様な超高速ブロードバンドの普及のための制度・方策の在り方

- ・ 固定通信は今後も重要となるため、超高速ブロードバンドの更なる普及促進の検討も必要。
- ・ ブロードバンドの利活用を促進するため、NTT東西のNGNの更なるオープン化を含めた競争促進が必要。

## 4) 「これまでの市場の枠組を超えた新たな動向」に対応した制度・方策の在り方

- ・ 事業者のグループ化の進展、固定通信と移動通信等のサービス連携・電波利用の連携の進展、通信レイヤーと上位レイヤー等との垂直統合型サービスの進展等、これまでの市場の枠組を超えた新たな動向を踏まえた規制対象の範囲や接続料等の在り方の検討が必要。

- ③ 2020年代に向けて、ICT基盤を担う事業者の在り方について、どのように考えるか。

## 3. 情報通信基盤の利用機会の確保や安心・安全の確保のための電気通信事業の在り方 —世界に誇れるICTを利用しやすい国に—

### (1) 世界に先んじてICTを全ての人の手に

○ 2020年代に向けて、利用機会が確保されるべきICT基盤・サービスについて、どのように考えるか。

- 1) 全国くまなく、どこにいてもビジネスが展開でき、高齢者にも使えるようなICT基盤の整備が必要。
- 2) 1)のICT基盤の実現に当たり、ユニバーサルサービスについて、モバイルやブロードバンドを含めた上で、競争ではサービスが提供されない部分のみを対象とする仕組みの検討が必要。
- 3) 1)のICT基盤の実現に当たり、ユニバーサルサービスについて、利用者の負担に配慮した仕組みの検討が必要。

### (2) 安心してICTを利用できる環境の整備

※「ICTサービス安心・安全研究会」(資料2-5)と連携し検討

○ 2020年代に向けて、より安心してICTを利用できる環境を確保するには、何が必要と考えられるか。

- 1) サービスに関する苦情・相談の増加・高止まりやサービスや料金の複雑化等を踏まえ、利用者に対する説明や苦情・相談体制の充実等の消費者保護ルールの見直し・充実が必要。
- 2) その他、ICTに関するリテラシーの更なる向上等、より安心してICTを利用できる環境の実現が必要。

## (3) 世界中から訪れたくなる国に

○ 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催等、グローバル化の一層の進展を踏まえ、**観光客やビジネスマン等**にとって国内外で**ICTを利用しやすい環境**を実現するには、何が必要と考えられるか。

- 1) 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催に向けて、**公衆無線LANの利用環境の整備等**、訪日外国人が**ICTを利用しやすい環境の実現**が必要。
- 2) グローバル化の一層の進展を踏まえ、端末の海外利用や端末の持ち込みを容易にするため、**SIMロック解除の推進等**が必要。